

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	I Le 曙 みそら		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 3月 13日		～ 2026年 3月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域(健康・生活/運動・感覚/認知・行動/言語・コミュニケーション/人間関係・社会性)をバランスよく取り入れた支援を取り入れている。	・個別支援計画に基づいた日々の支援の見える化を実施。 ・スケジュール提示やタイマー活用等により、児童が見通しを持って安心して過ごせる環境づくりを行っている。	・保護者との面談や情報共有の機会を増やし、家庭と一体となった支援体制の充実を図る。
2	チームで一貫した支援ができる体制。	・朝礼・終礼・支援会議による情報共有 ・職員間での閲覧体制と支援の方向性を統一するためのミーティングを実施。	モニタリング時に「できるようになったこと」を具体化し、成功事例や困難事例の共有を行う。
3	多職種連携による個性の高い支援の実施。保育士・児童指導員に加え、医療職との情報共有により、個々のニーズに応じた支援を提供している。	・日々の活動の中に運動・コミュニケーション・社会性等、5領域を意識した活動プログラムの構成を取り入れ、自然な形で成長をサポートしている。	専門性向上のための研修・事例検討の充実。医療機関との連携を活かし、職員のスキルや支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や家族との交流・情報共有の機会が不十分。日々の様子はLINE等で報告しているが、共有や相互理解の機会が限られている。	・日々の支援業務が中心となり、家族支援の時間確保が難しい。 ・送迎や活動対応に追われ、保護者との丁寧な関わりの時間が不足しやすい。	保護者との関係強化に向け、定期面談や通信(LINE等)を活用し、双方向の情報共有の機会を意図的に増していく。
2	異年齢児童間の関わりや集団活動の機会がやや不足している。年齢や障害特性ごとに活動が分かれやすく、関係性を広げる機会が限定的となっている。	・安全面や個別配慮を優先することで活動が限定されやすい。 ・発達特性やトラブル防止の観点から、異年齢交流や集団活動を控える傾向がある。	異年齢交流や小集団活動の段階的な導入。少人数・ルール設定を行った上で、安心して関われる場を設定し社会性の育成につなげる。
3	支援内容の専門性にばらつきが見られることがある。医療連携の強みがある一方で、職員間での理解度や支援スキルに差が出る場合がある。	・専門的支援に関する共有・研修機会の不足。 ・医療との連携はあるものの、全職員への知識の共有や実践へ時間確保が不十分。	職員の専門性向上と情報共有体制の強化。児童精神科との連携を活かした研修や事例検討を定期的に実施し、支援の質の向上を図る。